B13 輸入外部寄生虫症としてのマダニ咬症への対応

内川公人（信州大学医寄生虫学）

Problems in identification of ticks imported on victims

Kimito Uchikawa

寄生性節足動物は、一般に寄生期間（時間）が短いために、輸入されて治療の対象となる寄生虫を惹き起こすことは少なく、終生寄生虫と例外的に寄生期間の長いヒトヒフバエ、スナノミ、マダニ類、などが取り上げられてきただけである。これらの他にトコジラミによる輸入皮膚症の報告もあるが、原因種を実際に見ることは難しい。われわれは寄生体の同定を要求されるが、宿主関係や分布域に関する情報があれば容易に同定できる種類がある一方、マダニ類のように地域ごとに特異なファウナがあるために鑑別しにくいことが多いものがある。さらに、マダニ類では、成虫ばかりではなく、チマダニ属やキララマダニ属のように若虫や幼虫を含めた全活動齢期の同定が要求されることがある。しかし、これらの要求が叶えられず、属までの同定に留まる傾向にある日本の現状を、一つの問題として取り上げたい。

B14 愛知県から分離された有毒フトゲツツガムシの性比について角坂 照貴[○]（愛知医大・寄生虫）・山本 正悟（宮崎県衛生環境研究所）Sex ratios in *Orientia tsutsugamushi*-infected colonies of *Leptotrombidium pallidum* in Aichi Prefecture.

Kadosaka T. and Yamamoto S.

愛知県小原村大倉で採集されたフトゲツツガムシから5コロニー（5/74）の*Orientia tsutsugamushi* 保有コロニーを分離した。これらが保有するリケッチアはモノクローナル抗体を用いて同定した結果、Karp型と同定された。この有毒ツツガムシは雌が雄に優先して出現したため3世代目の成虫を用いて雌雄の出現状況を調べた。その結果、国内の他の地域のフトゲツツガムシで見られるような雄の出現頻度より東南アジアの他の種で見られるような低い頻度であった。出現した4個体の雄は全てリケッチアを保有していた。しかし4世代目から雄の頻度が高くなり5世代目にはリケッチアが見られなくなった。

Lot No.	満腹落下数	成虫数	雌	雄	不明
8	1 4 2	9 2	9 2	0	0
1 1	1 2 3	1 0 4	1 0 0	3	1
2 0	1 4 0	8 7	8 5	1	1
2 5	9 3	5 2	5 2	0	0